日本風工学会賞（功績賞）を受賞して

日比一喜*

Kazuki HIBI

この度、日本風工学会功績賞をいただきまして大変ありがとうございます。今までご指導いただきました諸先輩、先生方、また一緒に仕事をしてきました仲間たちに感謝の意を表させていただきたいと思います。私ごときがという気持ちでただただ恐縮していると共にさらなる仕事への意欲もかきたてております。

私が風工学会への関わりを持ちましたのは1971年に清水建設への入社とともに上司である藤井邦雄氏の業務命令での入会でありました。その頃は学会の何たるかもあまり理解しておらず、会費の払込も滞りがちでした。20代は風工学の勉強よりは建設現場地下工事の監視システムの開発プロジェクトで全国を走り回ることが主たる仕事となっていました。そんなある日、当時の学会事務局であられた吉田正昭氏から連絡が来てしまい、会費を払いなさいとの天の声で初めて反省をした会員でありました。

その後、ふとしたきっかけで流れの数値解析に興味を持ち2次元角柱周りの計算をしてアニメを作っていました。これを上司の藤井邦雄氏に見つかってしまい、村上周三先生の研究会に送られることとなり地獄の3年間を過ごすこととなりました。ここで加藤信介先生、持田灯先生をはじめとする建築環境の研究者に多くの知己を得たことが今の大きな財産となっております。

技術研究所に復帰してからは風洞の計測システムの刷新、流れの数値解析の実用化への取り組みなどの数々の

試みを行いました。中でも上田宏氏（現千葉工大教授）とともに開発を行いました多点同時圧力計測システムは思い出深いものがあります。

この年代になるとさすがに風工学会の総会にも会場の後ろの方で真面目に成行きを眺めるようになりました。ある時、前の方で日比一喜と大きな声で吉田正昭さんをご発声するので何事かと思っていましたら当時の評議員の推薦でした。これをきっかけに学会活動の内部に少しずつ関わるようになりましたが評議員会とは何をすることかさえ理解していない状態でした。それから何年かした後、藤井邦雄氏からバトンタッチする形で学会の財務担当理事を拝命し様々な学会活動のお手伝いをさせていただくこととなりました。

ある年度に突然、事務委託をしていた学会事務センターの破綻事件が起こり田村幸雄会長以下学会関係者数名で走り回り、何とか一部の資金を回収できたことを昨日のここのように覚えております。また長年の懸案でありました学会の法人化も藤野陽三会長の強力な指導のもとに無事終えたことも記憶に新しい出来事です。

ここにはお名前を上げるのでできなかった多くの学会関係者とまるで同じ会社の仲間のようにお付き合いをさせていただいたことは一生の宝物と思っております。また今でも仕事上で多くのお付き合いをさせていただいている菊池浩利氏以下かつての仲間たちに大きな感謝を捧げたいと思います。

* 株式会社数値フローデザイン
Numerical Flow Designing Co. Ltd.